



OYAMA STATION AREA DESIGN CONCEPT BOOK

大山駅 駅前広場+鉄道附属街路第6号

デザインコンセプトブック

CONTENTS

はじめに	— 01
目的・事業概要・位置付け	— 02
意見収集	— 03
デザインコンセプト	— 04
デザインプラン	— 05
デザインパース	— 06

はじめに

大山駅周辺は都市計画道路補助線街路第26号線整備事業（事業者：東京都）（以下「補助第26号線」という。）や大山町ピッコロ・スクエア周辺地区第一種市街地再開発事業（事業者：市街地再開発組合）、東武鉄道連続立体化交差事業（事業者：東京都）など、様々なまちづくりが進められており、令和6年12月には大山町クロスポイント周辺地区第一種市街地再開発事業（事業者：市街地再開発組合）の工事が完了いたしました。

区においても各交通機関への乗り換え利便性の向上などを目的として令和3年12月に都市計画事業認可を受けた、大山駅駅前広場整備事業（板橋区画街路第9号線）（以下「駅前広場」という。）及び同日付けで都市計画事業認可を受けた都市高速鉄道東武鉄道東上本線付属街路第6号整備事業（以下「鉄道付属街路第6号」という。）を進めております。

区では令和7年度に区民の皆様とのワークショップや商店街でのオープンハウス（路上ヒアリング）などを開催しながら、駅前広場と鉄道付属街路第6号との一体的な空間活用について検討を行い、デザインコンセプトブックを作成いたしました。

本デザインコンセプトブックは、時代に応じて変化する条件の中でも大山らしい空間をつくるための指針となるよう駅前広場+鉄道付属街路第6号のデザインにおいて基本的な考え方を整理したものです。

駅前広場+鉄道付属街路第6号に対する思い

デザイン検討にあたってご助言をいただきました、学識経験者の先生方に駅前広場+鉄道付属街路第6号に対する思いについてお話をいただきました。



歴史と活力ある商店街に隣接する大山駅の駅前広場が、次世代交通や地球温暖化などによって変化し続ける都市環境に柔軟に対応しつつ、豊かな都市生活を支える商店街や健康長寿医療センター等を含む地域コミュニティとともに発展していく地域の玄関口であると同時に、ウォーカブルなまちづくりの拠点となることを願っています。

坂井 文 / 東京都市大学 教授
デザイン案検討・学識経験者



今は、過去と未来の狭間にあります。これまでの大山駅周辺と今あるポテンシャルを踏まえながら、高架下を含めた駅前広場周辺の土地利用と一体となった新たな地域の自慢の場を創出する駅前広場と街路になってほしいとの思いを込めました。また、この場で展開される人々のアクティビティを想像しながら、広場のあり方を考えました。

大沢 昌玄 / 日本大学 教授
デザイン案検討・学識経験者

目的・事業概要・位置付け：発展を後押しする「駅前広場＋鉄道付属街路第6号」のデザイン案を示します。

「駅前広場＋鉄道付属街路第6号デザイン案」は今後の「基本計画」「基本設計」「実施設計」検討の際に、大山のまちにとってあるべき姿を決定する、大切な“骨格”となります。
まちと調和のとれた駅前広場＋鉄道付属街路第6号となるよう周辺地域のデザインについて考えていきます。

■位置図



駅前広場及び鉄道付属街路第6号の駅周辺には「ハッピーロード大山商店街」「遊座大山商店街」の2つの商店街や都内でも屈指の高度医療を提供している「東京都健康長寿医療センター」（以下「健康長寿医療センター」という。）、「板橋区立文化会館」「板橋第一中学校」などの公共施設があり、多様な要素の施設に囲まれています。

■デザイン案の位置付け

板橋区

板橋区都市づくりビジョン
都市計画に関する基本的な方針
(都市計画法第18条の2)
令和8年(2026)年3月改訂

【駅前広場の整備とにぎわい・交流拠点の形成】
都市拠点に位置づけられている大山駅周辺では、補助第26号線と大山駅をつなぐ駅前広場の整備を行い、地域交通結節機能の向上を推進します。

平成24年(2012)3月
大山駅周辺地区まちづくりマスタープラン
(大山駅周辺地区まちづくり協議会)

平成26年(2014)3月
大山まちづくり総合計画
【大山駅周辺地区の将来のまちの姿】
文化交流拠点に相応しい、交通基盤整備や鉄道立体化により利便性に優れ誰もが暮らしやすく、にぎわいに満ちた安心安全なまち～大山～

平成29年(2017)3月
大山駅の駅前広場構想
【駅前広場の基本方針】
補助第26号線の整備及び鉄道立体化を見据え、各交通機関への乗り換え利便性の向上を目的に駅前広場の整備を行うことで、駅前広場が、大山駅と補助第26号線をつなぐ役割を果たすなど、大山駅周辺の機能向上をめざします。

令和元年(2019)12月
都市計画決定

令和3年(2021)12月
都市計画事業認可

令和4年(2022)8月
大山駅の駅前広場整備事業について
(最新の事業概要に関する資料の公開)

令和7(2025)年度
駅前広場及び鉄道付属街路第6号に係るデザイン検討

東京都

補助第26号線整備(東京都施行)

目的
特定整備路線の整備による広幅員の延焼遮断帯の形成。

東武東上線(大山駅付近)
連続立体交差事業

目的
高架化により8カ所の踏切が除却され、交通渋滞や踏切待ち、踏切事故が解消されると共に鉄道により分断されていた地域の一体化を図る。

事業主体の異なる公共事業が
相互に連携していくことが重要

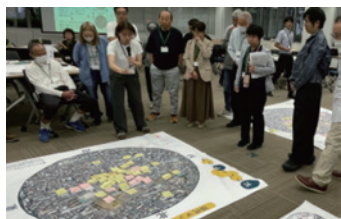
意見収集：区民・学識経験者などと共に進行したデザイン案の作成

区民の皆様の思いをデザイン案に反映させるために全2回のオープンハウス（路上ヒアリング）と全3回の区民ワークショップを開催いたしました。また多角的な視点から検討を行うために庁内のまちづくり関連部署で構成された「庁内検討会」を計3回、区のまちづくり計画等に関わっていただいている東京都市大学の坂井教授、日本大学の沢教授と「学識経験者会議」を3回実施いたしました。

■ワークショップ

●第1回区民ワークショップ

実施日時：令和7（2025）年/10/4（土）の14:00~16:00
場所：板橋区役所2階「人材育成センター」 参加者：23名



過去と現在の大判航空写真にまちの価値や思い出を書き込み、参加者の考えを共有する「今昔ガリバーマップ」と駅前広場等で見たい・やってみいたいシーンについて検討する「テーブルトーク」を実施しました。

●第2回区民ワークショップ

実施日時：令和7（2025）年/11/29（土）の14:00~16:00
場所：板橋区役所2階「人材育成センター」 参加者：16名



交通ロータリー縮小案を提示し、各班ごとに駅前広場+鉄道付属街路第6号でやってみたいことを、様々な属性（高校生や主婦等）×平日休日の朝昼晩・イベント時で検討しました。

●第3回区民ワークショップ

実施日時：令和8（2026）年/1/17（土）の14:00~16:00
場所：板橋区役所2階「人材育成センター」 参加者：18名



第2回ワークショップの意見等を踏まえ作成した駅前広場+鉄道付属街路第6号デザイン案の図面や模型を用いて、この場所でやってみたいコトやあったらいい機能について出し合い、内容を整理しました。

■オープンハウス（路上ヒアリング）

●第1回オープンハウス

実施日時：令和7（2025）年
9/17（水）・9/20（土）の10:00~17:00

場所：「板橋区立文化会館」「大山駅南口改札横」
「補助第26号線暫定整備地」



当日は事業概要や大山駅周辺の歴史・場所性パネルを展示しながら、大山の魅力や課題、駅前広場等にあったらいいシーンを、事例写真をベースに路上ヒアリングを行いました。



- ・立ち止まって見てくれた方 合計383名
- ・あったらいいシーン投票 合計313枚
- ・まちの魅力と課題 合計41件

●第2回オープンハウス

実施日時：令和8（2026）年
1/21（水）・1/24（土）の10:00~17:00

場所：「大山駅南口改札横」「補助第26号線暫定整備地」



路上にデザイン案の模型や平面図、できるコトを掲載したパネルを展示し、第3回ワークショップと同じ内容を通行人の方々にお聞きしました。



- ・立ち止まって見てくれた方 合計395名
- ・やってみたいコト 合計3件
- ・あったらいい機能 合計22件
- ・その他コメント 合計18件

■学識経験者会議



実施日
第1回
令和7（2025）年
8/19（火）・27（水）
第2回
令和7（2025）年
11/17（月）・20（木）
第3回
令和8（2026）年
1/9（金）

都市計画・交通工学および景観デザインの専門家である坂井文教授（東京都市大学）と大沢昌彦教授（日本大学）から、全3回にわたり高度な助言を収集しました。

→1日1.4万人の歩行者交通量を活かした「地域経済に寄与する広場デザイン」や、周辺環境と調和する「みどりのネットワーク形成」など、客観的かつ専門的な見地からご意見をいただきました。

■庁内検討会



実施日時
第1回
令和7（2025）年
9/16（火）~26（金）
第2回
令和7（2025）年
11/7（金）
第3回
令和8（2026）年
1/5（月）~1/9（金）

板橋区のまちづくりに関わる関係各課（都市計画、道路、防災、福祉、産業振興等）が横断的に参画し、全3回の会議を実施しました。

→単なる交通インフラの整備に留まらず、避難場所としての「防災機能」、高度医療拠点への「バリアフリー動線」、イベント時を見据えた「インフラ」の確保など、実務的な観点から空間の質を担保するための議論を重ねました。

デザインコンセプト：駅前広場＋鉄道付属街路第6号の考え方

「大山ウェルネス&グリーン・プレイス」

武蔵野台地の自然等を活かしながら大山が育んできた「にぎわい」と、まちが有する高度な「医療機能」。2つの価値・機能を駅前広場で結びつけ、「歩くこと」をきっかけに心身が健康になるまちを目指します。単なる交通広場ではなく、人と人が出会い、みどりに癒やされ、活力が生まれる、大山のこれからの発展を支える、新しい「広場」をつくります。

①商店街（街道）のまち

“歩くこと”を軸にしたまちづくり



旧川越街道など行き交う歴史を持ち、日常の買い物やイベントで賑わう大山は、人々の生活の軸です。

→新しい駅前広場では、この歩く文化を継承して多様な体験ができるウォカブルな空間を創出します。駅とまちを繋ぐ新たな「交通」の結節点として、エリア全体の回遊性を高めます。

②豊かな地域コミュニティのあるまち

人と人との関係性の豊かさ



大山には、区民の力で商店街へと発展した豊かな地域コミュニティの歴史があります。

→新しい駅前広場等では日常的な利用や非日常的なイベントが行える広さや設備を確保します。住民自身が活用や手入れに関わるきっかけを作り、新旧住民のつながりと交流を育てていきます。

③医療の中核を担うまち

“心身の健康づくり”につながる



大山駅周辺は「健康長寿医療センター」など高度医療機関が集積するまちです。

→予防医療の観点から、新しい駅前広場は歩くことを促し「体の健康」を、交流によって「心の健康」を育む空間を目指します。自然豊かな環境を活かし、人々の心身の健康づくりの一助となるデザインを考えます。

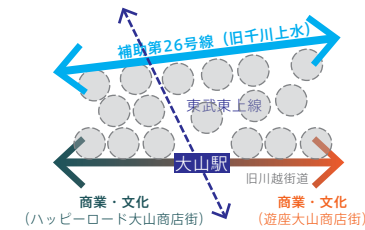
デザインダイアグラム

コンセプト
大山ウェルネス&グリーン・プレイス



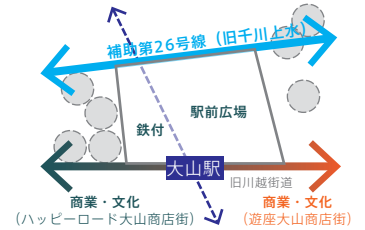
「交通」「コミュニティ」「医療・健康」の3つの要素がにじみあう駅前広場を創出します。

①現在の大山駅と2つの商店街



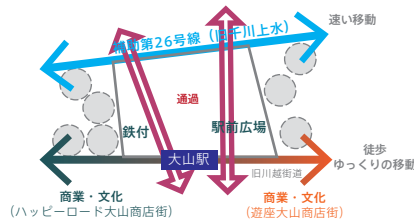
補助第26号線と商店街の軸に挟まれた大山駅周辺は、建物に囲まれ多様な活動が生まれにくい環境にあります

②整備事業による余白空間の創出



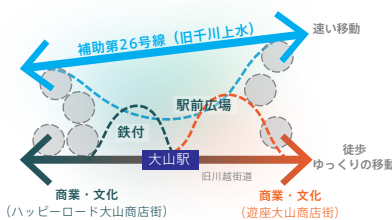
駅前広場整備事業や鉄道付属街路第6号線整備事業により、過密だったまちに余白空間が大山駅前に創出されます。

③全体デザイン STEP 1 2つの価値とつながる「みち」の創出



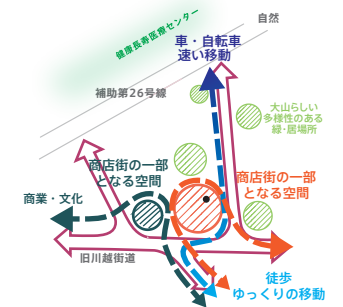
2本の軸（補助第26号線と商店街）がつながる場所。まちの「みち」として動線の効果を発揮します。

④全体デザイン STEP 2 大山らしい多様な要素の浸透



商業・文化・交通・自然・医療などの要素が浸透し、まちの居場所として、多様性を受け止める場所になります。

⑤全体デザインの考え方



- ①鉄道付属街路第6号+駅前広場+前面区道を一体的にデザインする。
- ②大山駅周辺の場所性と歴史を継承する。

デザインプラン：駅前広場＋鉄道附属街路第6号のデザイン案

デザインコンセプトを踏まえ、旧川越街道などの行き交う歴史がある、歩く文化を継承したウォーカブルな空間を創出できるようにデザイン案を検討しました。

※無断転載禁止

※本デザイン案は現段階のイメージであり、今後も継続的に関係機関との協議や法令等を整理する必要があり、今後の検討によって変更する可能性があります。



●デザインを方向付ける3つの前提条件

①「広場空間の拡大」に対する需要

- 「人が集まる・滞留する場所」を求める声
 - ・みんなが集まる場所(休む・食べる)が欲しい
 - ・イベントなどで人が集まる場所になって欲しい
 - ・子供達のパレードなどが発表できる場が欲しい 等
- 「空間の狭さ・使いにくさ」に対する課題感
 - ・幅4mで狭いため使い方が難しい
 - ・広場として面積が小さいため使い方が難しい
 - ・ロータリーの使い方を考えてスペース活用できるのでは

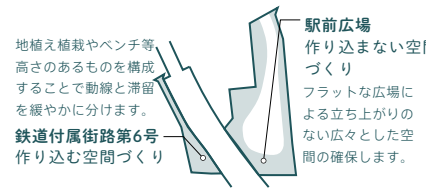
区民意見収集を通じて、駅前空間には「日常の憩いの場」や「イベント・マルシェ空間」、さらに「災害時の避難・防災拠点」としての多目的な機能が強く求められていることが確認されました。これらを受け止めるため、交通機能を最適化し、人々が自由に使える「フラットな広場空間」を最大化することが不可欠です。

②板橋区の「ウォーカブル推進都市」への参画



板橋区は令和7年4月に「居心地が良く歩きたくなるまちなか」の形成を目指す「ウォーカブル推進都市」に参画しています。この方針に基づき、これまでの「車中心」の駅前空間から、歩行者が安全に移動し、心地よく滞在できる「人中心」の空間への抜本的な転換をデザインの第一の前提としています。

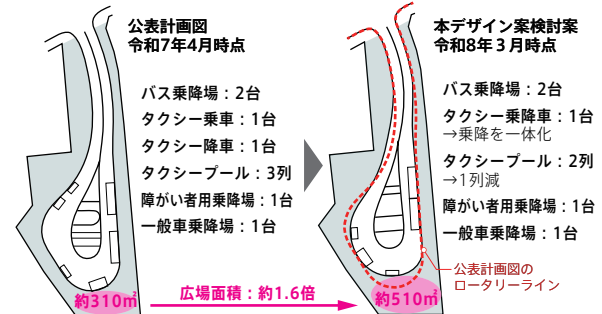
③「作り込む」「作り込まない」ことによる空間の使い分け



限られた空間で多様な活動を両立させるため、場所の特性に応じたメリハリを持たせます。幅員の限られる鉄道附属街路第6号は、ベンチや植栽を丁寧に「作り込む」ことで日常の居場所とします。一方、駅前広場はあえて固定物を置かず「作り込まない」ことで、日常の憩いから大規模イベントまでを柔軟に許容する高い汎用性を確保します。

「交通ロータリー」の考え方

広場空間を最大化する交通ロータリーの縮小
バスやタクシー等の乗降に必要な機能・転回軌跡を確認し、広場空間の拡大を検討した。



※上記案は検討段階であり、今後の交通事業者等との協議が必要

「広場」の考え方

前面区道と一体となったメイン空間
商店街からの利用やまちなみとの調和を踏まえ、前面区道と舗装を統一し、利活用のメイン空間を配置します。

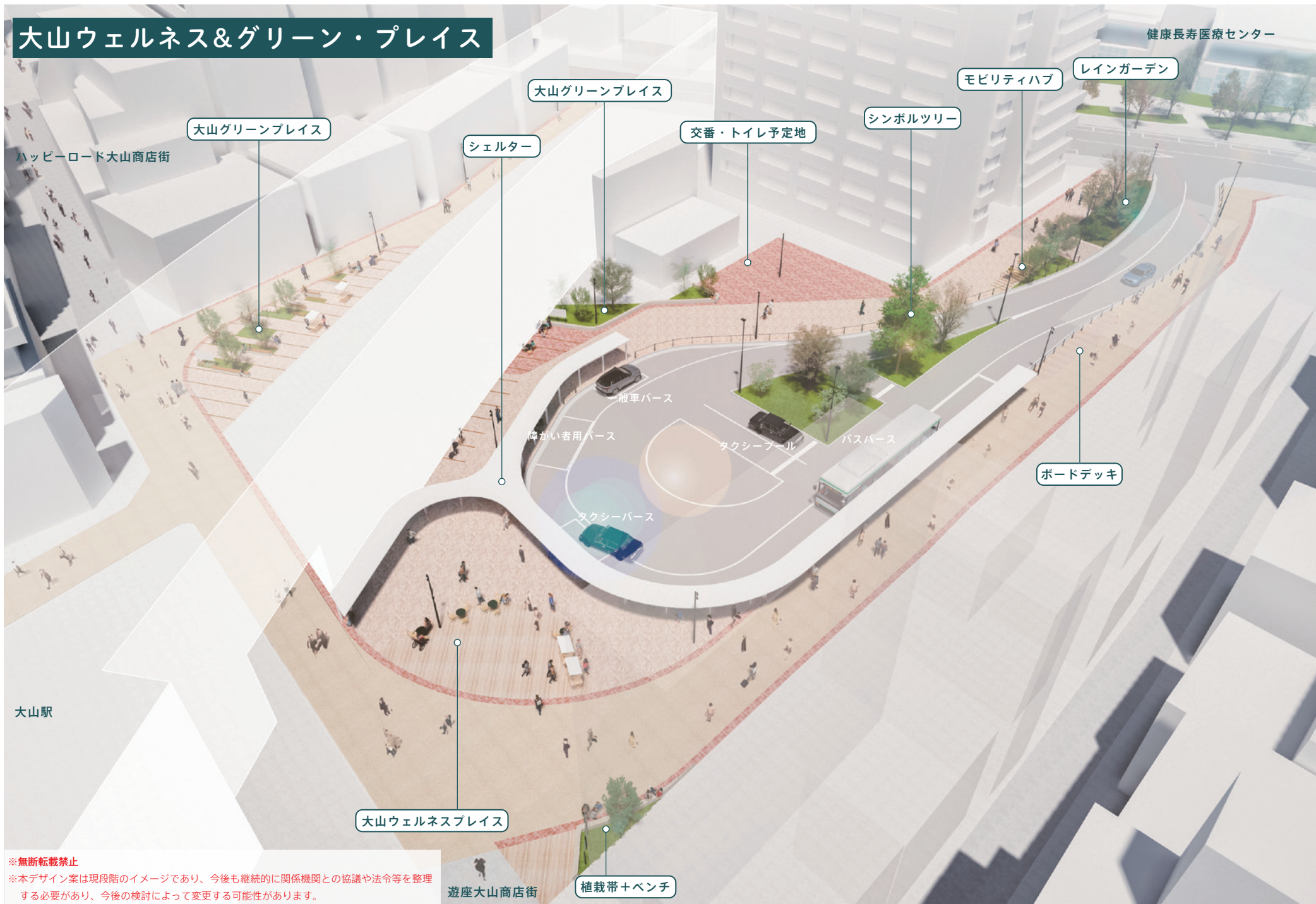
「歩道」の考え方

バリアフリーを意識した歩道幅員の確保
全歩道幅員を4m以上確保することで、不自由のない歩行空間とし、まちの「歩く」文化を継承します。

「みどり」の考え方

小さなみどりを連続で配置
東京都健康長寿医療センターのみどりとつながりや、心身の健康につながる居心地の良さを構築します。

大山ウェルネス&グリーン・プレイス



※無断転載禁止

※本デザイン案は现阶段のイメージであり、今後も継続的に関係機関との協議や法令等を整理する必要がある、今後の検討によって変更する可能性があります。

大山グリーンプレイス

植栽帯+ベンチ

みどりに囲まれた滞留場所として休憩や飲食、商店街で買った物の荷物整理など日常の様々な活動を支える空間です。

サイン掲示板

地域の情報を掲示します。

イス・テーブル

イベント開催時や高架下空間との連携時など、必要に応じてイスやテーブルを展開し、賑わいと滞留の空間を柔軟に拡張します。

東武東上線

※無断転載禁止

※本デザイン案は現段階のイメージであり、今後も継続的に関係機関との協議や法令等を整理する必要があり、今後の検討によって変更する可能性があります。

大山ウェルネスプレイス

プレミスト大山

シェルター

歩道空間から雨に濡れず交通ロータリーに向かえる配置とします。

健康長寿医療センター

大山ウェルネスプレイス

日常の憩いやマルシェから、区民祭りなどのイベント、災害時の防災拠点まで、多様に利用できる空間です。ウッドデッキの色合いや素材感が、広場のやわらかい印象を支えます。

サイン掲示板

駅前広場の使い方や地域防災など、まちの生活・文化にとって必要な情報を掲示します。

※無断転載禁止

※本デザイン案は現段階のイメージであり、今後も継続的に関係機関との協議や法令等を整理する必要があり、今後の検討によって変更する可能性があります。

大山駅前広場＋鉄道付属街路第6号
デザインコンセプトブック

Ver 1.0
発行：2026年5月 板橋区
作成：板橋区・SOCl inc.

